

第56回新潟内分泌代謝同好会

日時 平成3年11月2日(土)
午後2時開会
会場 東映ホテル
2階 朱鷺の間

I. 一般演題

- 1) 妊娠後期に高脂血症, 膵炎, 糖尿病性ケトアシドーシスを合併した1例

善場 元美・八木 勝宏
高木 顕・田中 直史
山田 彬 (新潟市民病院)

- 2) ラ氏島過形成症の1例

五十嵐 修・高沢 哲也
山田 幸男 (信楽園病院内科)
清水 武昭・土屋 嘉昭
佐藤 攻 (同 外科)

症例は72才女性。主訴は意識消失。家族歴には特記事項なく、既往歴では約10年前より高血圧にて近医を受診。現病歴では、平成3年4月26日、翌27日に意識消失発作あり当院に27日緊急入院となった。身体所見では、34%の肥満を認める他は異常所見はなく、検査所見では血糖値が36 mg/dl と低値を示した。入院後施行した絶食試験ではインスリン/血糖値比は、0.25以上の高値を示し、また whipple の3徴を示したためインスリノーマを疑った。経皮経肝門脈採血において膵体部でのインスリンのステップアップを認め、インスリノーマの診断のもとに、6月10日郭出術を施行するも術中腫瘍は同定できず、膵体尾部切除を施行した。切除標本を検討したところ、腫瘍はなくびまん性のラ氏島の過形成を認めた。以上より本症例は高インスリン血症性低血糖の約6%を占めると言われるラ氏島過形成症の1例であると考えられた。

- 3) 低 HDL-c 血症糖尿病患者における HDL-c 低下因子の頻度およびその関与度について

岩原由美子・渡辺 栄吉
梶井由美子・佐藤美代子
横山 和子・柄沢 則子 (信楽園病院栄養科)
高沢 哲也・山田 幸男 (同 内科)

【目的】糖尿病患者の死因として、動脈硬化性疾患が

多くを占め、その対応として HDL が重要である。より HDL-c の低下作用の大きい因子を明らかにして、それを改善する目的で、低下因子について検討した。

【対象と方法】平成2年の当院受診糖尿病患者883人中、低 HDL-c [40 mg/dl 以下] の395人(男244人, 女151人)を対象に、T.G, 喫煙などと HDL-c について検討した。【結果・考案】低下因子中、男性では高 TG 血症者 [≥200 mg/dl] の81.7%が HDL-C40 以下で、βブロッカーの内服者80%, 低 T.chol 血症 [130 mg/dl ≥] 66.2%, 喫煙 [≥10本/日] 76.3%, 肥満 [肥満度 ≥20%] 69.8%, プロブコール, 血糖不良者 [HbA1c ≥8.0%] の順であり、女性では低 T.chol 血症100%, βブロッカー83.3%, プロブコール72.1%, 高 TG 血症58.2%, 肥満, 血糖不良者の順であった。中でも高 TG 血症, 肥満, 喫煙, 血糖不良などが大きく関与しているので、一般生活指導を重視して改善をはかる必要があると考える。

- 4) エンドセリンと妊娠性高血圧症

須藤 寛人 (長岡赤十字病院 産婦人科)
嶋井 久司 (同 内科)
山路 徹 (東京大学第三内科)

妊娠性高血圧症の成因に関しては未だ不明の点多く、今回私達は血中エンドセリン (ET-1) を測定し、病態とのかかわりを検討した。

対象患者は重症妊娠性高血圧症16名, 本態性高血圧症10名, 対照は正常妊婦11名, 非妊娠正常婦人16名であった。各群間の年齢に差はなく、おおむね、妊娠32~34週での検討であった。

結果として、正常妊婦は非妊婦より ET-1 濃度は低いこと、妊娠性高血圧症群と高血圧合併妊婦群では正常妊婦より有意に ET-1 が高いことが明らかとなった。また、妊娠性高血圧症群では高血圧合併妊婦群よりもさらに有意に高値であることが示された。

本研究において、異常高値の ET-1 を呈した HELLP 症候群の1例および高血圧合併妊婦に妊娠性高血圧症を併発した1例も呈示した。

妊娠性高血圧症の発生や増悪因子として ET-1 が深く関与していることが示唆された。